英雄の法

普通の人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
英雄の法

【Ｎコード】
Ｎ５３３９Ｚ

【作者名】
普通の人

【あらすじ】
ケルスは非常に困っていた。いつも受ける試験は下位になるはずが試合最中に憑依してきた異世界人を名乗る神宮寺啓が面白半分に試合に勝利してしまった。異世界の国家ルージンにある聖魔法学園で起こるケルスと啓の微妙な関係。啓は自分の存在を必死に隠そうとするが・・・
（拙い文章ですが暇つぶしに見ていただければ幸いです）

1　始まり（前書き）

初めて投稿させていただきます
みなさまのお暇つぶしになればなーと思います。

1　始まり

「あー欝だ」
　ケルスは非常に困っていた。自分が生まれた世界に不満はない。衣食住に困ることがない貴族の両親の元に生まれ良き息子として順風満帆に人生を歩んで来た。ただ貴族であるためには色々学んでいかなければならない。この世界にある魔法の勉強に始まり領地の治め方も勉強しなければならない。
　自分が１６歳になり入学した聖魔法学園で定期的にある魔闘試験、簡単に言うと魔法有り、格闘有りの試験で学年順位を決定する決まりである。
「おはよ」
「おはよう、ディスチェ」
　教室で話かけてきたのは席が隣の学年首位である獣人猫種の非常に人気のある女の子ディスチェだった。
　この世界では獣人が数多く存在しさまざまな種族の者達が共存していた。
「毎回君は試験当日になると死人のような顔をするね」
「まぁ毎回ほぼ下位だからな」
「君は上位になるように努力しないのかい？」
「いやだよ、頑張っても疲れるだけだし」
「そうかい」
　それで会話が終わったのかディスチェは教科書を広げ復習をし始めた。頑張ろうとした事はあった、だがいつも三日坊主で終わってしまう。頑張って魔法を勉強してもうまくいかず、格闘は疲れ、そして別に勉強しても学年順位がちょっと上がるだけだし別にいいやとあきらめてきた。
　沈んだ考えをしていると先生が調度教室に入ってきたようだ。
「おはよう諸君、今日は魔闘試験がある。それぞれ準備は万端だと

思うが油断せずに挑め！」

1　始まり（後書き）

誤字なんてあるわけない。

2　出会い？

試験がいよいよ始まってしまった・・・。学年２０人全員での総当りなので自分が闘う時間より観戦する時間が長い。粛々と試験が進んでいくが恐ろしいことに今まで下位だった事は頻繁にあったが最下位になってしまいそうだ。学年首位以外の全員に負けてしまって学年首位に勝てるはずが無い・・・。

「まずい・・・非常にまずい」
『あぁこれはまずいね』
「うん、父さんに絶対に怒られる」
『怒られるならいつも真面目に訓練すればいいじゃん・・・』
うん？だれださっきから語りかけて来るのは。
『いやー初めまして異世界よりお邪魔してます神宮寺啓と申します』
「うぉ！――――――――――」
『あ、ごめんちょっと喋れない様にさせてもらうよ。まず色々説明させてもらおう、質問は最後な。
まず実は1年前から君の体にお邪魔してた。理由はすぐに話かけても俺もうまく説明できないと思うし君も色々と混乱しそうと思ったからだ。異世界人だけど信じられなければ別に信じなくていいよ。
さて何か質問は？受け答えは声に出さずに頭の仲で思うだけでいい。それで伝わるから、さすがに回りに頭がおかしいと誤解されたくないだろ？』
『こうか？』
『きこえてるよ。さぁなんでも聞いてくれ』
『・・・とりあえず何で今話しかけてきた。俺今試合最中で落ち着いて話せないぞ』
『あぁそうそう何か負けそうだったから良ければ手伝おうかって思ってたんだ』

『え？　どうやって？』
なんという素晴らしいことだ。この頭に話しかけてきた人物は自分を試合に勝たせてくれるらしい。
『まぁ無駄に1年間、君の体から外を観察していたわけじゃないからね、・・・たぶん勝てるよ』
1行進んだだけでこの人に不信感が募ってしまった・・・
『・・・は？　なにそのたぶんって』
『ほら、初めてちょっと体使わせてもらおうとしてるからうまく出来なきゃ負けるさ』

「次！　ケルス、ディスチェ！」
不意に先生から声がかかる。
『おい！　ふざけんな！　雑談してたから心の準備が出来なかったじゃねーか！』
『まぁまぁ、大丈夫だよ・・・たぶん。じゃぁ体をちょっと借りるね』

「さっきからどうしたの？　ずいぶん挙動不審だけど」
「あぁすまない、心配してくれてありがとうディスチェ。なんでもないよ」
「・・・え？」
「ん？」
「いや、いつもとなんか違うわね」
しまった・・・さっそくやらかしてしまった。心の中でケルスがなにか言っているがとりあえず無視することにする。
「そんな事はない。俺はいつも紳士だよ」

「無駄口を叩くな！」
・・・怒られてしまった。まぁ最後の対戦相手との無駄話はさす

がに仕方ないかとあきらめる。
「それでは、ケルス、ディスチェ！　準備はいいな？」
「はい」
「はい」
「対戦始め！」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5339z/

英雄の法

2011年12月21日00時47分発行